

## 今日の聖書のことば

### 1月10日(日) 出エジプト 39章

ここには聖所の務めのための祭服の規定と、工事の完成が記されている。「主がモーセに命じられたとおりに」と繰り返して記されている。主が命じられるままに従うことが信仰なのです。

### 1月11日(月) 出エジプト 40章

幕屋建設をモーセは命じられたとおりにすべてを完成しました。神はモーセの造った幕屋を受け入れられ、そこに臨在されました。雲は臨在して幕屋を覆い、主の栄光が幕屋を満たしました。

### 1月12日(火) レビ 1章

レビ記は、エジプトから贖い出されたイスラエルの民が、聖なるためとなるため何をなすべきか教えられています。種々のささげ物の仕方が示され、ここには自分のすべてを神にささげることを意味する全焼のささげ物について教えられています。

### 1月13日(水) レビ 2章

ここには穀物のささげ物について記されています。人々が毎日の食物について、神に感謝を表すための物であって、神のいつくしみと愛とに全く依存していることを表すささげ物です。

### 1月14日(木) レビ 3章

ここでは和解のささげ物について記されている。牛、羊、やぎ、脂肪の部分が焼かれ、献げられた後、ささげ物の残りの一部は祭司のものとなり、残りは献げた者のものとなります。主と祭司と献げた者が、皆同じように喜びを分かち合うのです。

### 1月15日(金) レビ 4章

ここには気づかずに罪に陥った場合には、どのようなささげ物を献げるべきかが記されている。しかし気づかずに犯したとしても罪は罪です。罪は知らずに犯して構わないと言うものではない。

### 1月16日(土) レビ 5章

罪のためのささげ物と罪過のためのささげ物について、罪の種類に応じてささげ物は異なる。ここに記され細かい規定は、どんな罪も決して軽く見てはならないことを教えるものです。それは現在に私たちにとっても非常に大切なことです。

---

## ろば No. 2001

2021年 1月 10日  
日本バプテスト立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

コリントー 6:11

あなたがたの中にはそのような者もいました。しかし、主イエス・キリストの名とわたしたちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされています。

「正しくない者が神の国を受け継げないことを、知らないのですか」とパウロは、コリント教会で信徒の間で争いが起こって、裁判にまで発展したことについて、「自分は知者だ」と自認する人々がいるコリント教会なのに、同じ教会員の争いを仲裁できるような「賢い人」がいないと言います。世界や御使いたちをさえ裁くほどの権威を与えられている聖徒たちなのに、神のことを知らない人々を裁判官に選ぶのはおかしいのではないかと、パウロは訴えるのです。

私はこの一年、しっかりと自分が何者であるかを確認することが出来るようでありたいと願っています。それではこれまでとはそうではなかったのか。これまでも、いつも自分と向き合ってきたと思っていますが、さらにそれを確かめさせていただこうと思っているのです。パウロは「正しい者はいない。一人もいない。悟る者もなく、

神を探し求める者もいない。皆迷い、だれかれも役に立たない者となった。善を行う者はいない。」(ロマ3:10-13)と言いました。私たちは、永遠のいのちにあずかり、神の国を受け継ぐ者とされたいと願っています。パウロは「正しくない者は神の国を受け継げないことを、知らないのですか」と言うのです。

私たちは、正しく生きてきたと自認しています。隣人に対して少しは不愉快な思いをさせたことがあったかも知れませんが、咎められるようなことをしてきたおもいはありません。しかしパウロは「思い違いをしてはいけません。みだらな者、偶像を礼拝する者、姦通する者、男娼、男色をする者、泥棒、強欲な者、酒におぼれる者、人を悪く言う者、人の物を奪う者は、決して神の国を受け継ぐことができません。」と言うのです。パウロは当時のコリントの町で特に目立ったものを指摘しましたが、それはコ

リントに限らず、いつの時代、どこでも福音が直面する人の世の現実です。特に「偶像礼拝する者」をあげたのは、神との正しい関係がおろそかにされ、神を神として礼拝出来ない者は、正しい者ではないというのです。ヨハネがヨルダン川で人々に悔い改めを迫り、求めたものです。ペンテコステの日に、ペテロの説教を聞いて心を刺されて、ペテロたちの所にどうすればこの罪から救われるかを求めてきました。ペテロは「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によってバプテスマを受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます」(使徒言行録2:38)と言いました

「思い違いをしてはいけません」新改訳聖書では「だまされてはいけません」と訳されています。神の国を受け継ぐ者とされる、だまされない生き方とは、御霊によって歩み、実を結び、愛のうちに光の子らしく歩み、キリストの復活の事実によく立って戦い生きることです。パウロは私たちに、「しかし、主イエス・キリストの名とわたしたちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされています。」というのです。キリストはこのためにこそ、「神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」(ピロ 2:6-7)。

「憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです——キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。」(エペ 2:4-5) そこに私たちのいのちの喜びがあります。

..... < 聖書の学び・祈禱会 > .....

## 自由にする律法                      マタイ 5 : 17-20

1. 始めに聖書を読もう。  
マタイ 5 : 17-20  
聖書教育 26-27頁を読む。
2. 聖書から教えられたことを書き留める。

### 3. み言葉を味わおう

昔、神さまはモーセを通して私たちに十の戒めをあたえられました。神さまはどのような思いで十の戒めをイスラエルの民に与えられたのでしょうか。神さまはイスラエルの民が戒めを守ることを通して、神さまの御心に生きることを願っておられる。祭司長らは律法厳守こそ最上の行為だと人々を指導してきました。

そこにイエスの律法破りとみられる行動に人々は怒りを発しました。それにイエスは「私が来たのは律法や預言者を廃止するためだと思ってはならない、廃止するためではなく、完成するためである」と言われます。神さまが与えられた律法・戒めは私たちが守るべき最大のもので、ただ私たちが神の御心をしっかりと受け止めて聞くべきです。

これは神さまのイスラエルに対する愛の計画に基づいて与えられたもので、単に禁止の命令ではありません。イスラエルをエジプトの奴隷から解放された神さまの慈しみから出たものです。そしてイエスは神さまの言葉をどのように読むかを語られます。昔の人は「殺すな」と命じているが、イエスは「兄弟に腹を立てるものはだれでも裁きを受ける」と言われる。何が神の御心であるか、律法は事細かな決まりを守るためのものではなく、何よりも神さまの深い愛と恵みを感じさせていただくものです。しっかりと律法(聖書)が与えられた神さまの思いをしっかりと聞き取りたいと願います。

< 祈り >

父よ、あなたは私たちを愛して十戒を、律法を与えられました。しっかりとあなたの御心を受け止めて日々を歩ませてください。

4. 「み言葉を味わおう」から教えられたことを書き留めよう。

聖書と説教    マタイ 11 : 25-30    私は神を知ることが出来る。
--